

2013年5月28日・北國新聞では

## 福島再生願い詩集

金沢のうおずみさん

日本現代詩人会会員で詩誌「衣」同人のうおずみ千尋さん（金沢市）はこのほど、東日本大震災と福島第1原発事故で被災した故郷再生を願った第6詩集『白詰草序奏—金沢から故郷・福島へ』をまとめた。

うおずみさんは1944（昭和19）年福島県生まれで、50代半ばで失明した。表題作は、幼い頃に味わった白詰草の匂いを思い起こした作品。「届かぬものは／描けばいい／描いても未だ遠ければ／引き寄せて耳を澄ませばいい」とつづる。心の中の原風景に思いをはせ、方言を織り交ぜた32編を収録している。

と紹介されています。